

## ● 浜 の 話 題

- 横浜市漁協柴支所の小底研究会では現在、タチウオ用の底びき網の改良試験に取り組んでいます。5月29日には、長年、漁具の研究をされてきた東京海洋大学の胡教授を柴漁港に招き、実際の漁具の構造について教授から助言を受けました。研究会では今後も教授の指導を受けながら、漁具の改良に取り組んでいくそうです。
- 6月1日、長井町漁協所属の漁業者が生産したワカメ種苗の育成状況を、担当普及指導員が顕微鏡で確認しました。芽胞体（ワカメの芽のようなもの）が観察された種系については、夏場に向け、育成小屋の中をより暗くし、風通しを良くする等の管理方法を担当普及指導員から伝えました。
- 6月3日、平塚市漁協は湘南ひらつか魚食普及協議会主催の「湘南ひらつか魚まつり朝市」に参加し、定置網で獲れた鮮魚等を販売しました。イベントには2,900人ほどが来場し、来場者は獲れたての平塚の魚を眺めたり買い求めたりして楽しんでいました。



にぎわうイベント会場



鮮魚販売の様子

- 6月4日、小田原市漁協刺網部会は、小田原漁港蓄養水面で大量に増殖していたガンガゼの捕獲事業を実施しました。ガンガゼは海藻を旺盛に食べ、繁殖力も非常に強いため、放置すると磯焼けを引き起こす生物です。当日は刺網部会が依頼した地元ダイビングショップのインストラクター11名のほか、刺網部会員11名、県水産技術センター相模湾試験場職員3名が参加し、合計1,200個、140kgのガンガゼを捕獲しました。捕獲したガンガゼの生殖腺は体重の5分の1ほどに発達しており、産卵前に捕獲したことで、相当量の卵が拡散するのを防ぐことが出来ました。本格的な磯焼け発生前に早期対策を行うことは藻場の保全に繋がるため、同漁協では今後も継続した取組を行っていくそうです。



潜水作業で捕獲したガンガゼ



捕獲したガンガゼの生殖腺

- 6月5日、城ヶ島漁協、同漁協所属漁業者、および城ヶ島ダイビングセンターで構成される「城ヶ島地域藻場保全活動組織」は、藻場を減らす一因となっている植食性魚アイゴの除去活動を開始しました。漁船7隻が地先漁場で一斉に刺網を仕掛け、翌日網を揚げたところ、尾叉長30cm前後のアイゴが215尾、111kg捕獲されました。この活動は平成25年から継続して実施されており、対象海域ではカジメの回復も確認されています。参加した漁業者は皆、さらなる藻場の回復を願っていました。



一斉に刺網を仕掛ける漁船



捕獲されたアイゴ

- 6月8日、東京湾小型機船底びき網協議会の小山会長は、神奈川県漁連および県水産技術センターとトラフグの資源管理について意見交換を行いました。同センター栽培推進部職員から横浜市漁協柴支所のトラフグ銘柄別漁獲状況について説明を受け、今後の資源管理方策について協議しました。これをもちに、6月16日に開催された千葉県漁業者との交流会（東京内湾小型機船底びき網漁業者交流会）で本県から話題提供しました。
- 6月12、13日、神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会は静岡県へ視察に行きました。静岡市用宗にあるしらす加工業者・株式会社マルカイでは、地元のしらす漁業の概要や1そう曳き漁法で獲れるしらすの品質の良さについて説明を受けました。また湖西市新居町にある食品加工機械取扱会社・有限会社カムサ商事では、最新のしらす選別機の説明を受け、参加者は隣県のしらす漁業の状況や最新の選別技術の話に聴き入っていました。参加した同協議会会員20名にとって、本視察は新しい技術の知見を広げただけでなく、お互いの親睦をさらに深める良い機会ともなりました。



参加した協議会会員



しらす選別機の視察

- 6月13、14日、小田原市漁協青年部会は宮城県塩竈市へ視察に行きました。塩竈魚市場では、まき網漁船のキハダマグロの水揚に立ち会ったり、東日本大震災で被災し全面的に建て替えを行った市場の中を廻り、市職員から説明を受けました。（国研）水産研究・教育機構東北区水産研究所では、施設見学を行い、研究員から「東日本大震災による環境変化がエゾアワビ

資源に与えた影響」、「東北海域におけるヒラメの生態」の2題の話題提供があり、アワビ・ヒラメの生態について知識を深める機会となりました。



マグロ水揚げ現場の見学



東北区水産研究所の視察

- 6月14日、県水産技術センター栽培推進部と（国研）水産研究・教育機構増養殖研究所は、共同研究の一環として、小田和湾松越川河口に全長約5.5cmのトラフグ種苗を7万尾放流しました。当日は、長井町漁協のトラフグはえ縄漁業者も立ち会いました。放流効果を高める工夫として、稚魚が沖合に分散せずに餌生物の多いごく浅い砂浜やアマモ場に留まるよう仕切り網を設置して放流が行われました。



ビニールシートのスロープで大切に放流されるトラフグ種苗



- 6月上旬、横須賀市大楠漁協所属の平野指導漁業士（平敏丸）は、これから盛漁期を迎えるタコかご漁について、神奈川新聞から取材を受けました。かながわブランド品にも登録されている「佐島の地だこ」のこだわりや直売情報等と合わせ、6月21日の同紙に記事が掲載されました。